

第2次札幌市環境基本計画の目的・位置づけ

- 目的と位置づけ
- 計画期間
2050年頃の札幌市の将来の姿を見据え、2030年度までの施策の方向性を示す(2018年度~2030年度)

1-1. 社会的動向 (国内外) ※計画策定時の動向も踏まえて記載

<国際的な動き>

- 地球温暖化・エネルギー
 - ・国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)におけるパリ協定の採択
 - ・台風や暴風雨などの異常気象の可能性(都市の安全性)
 - ・水素社会への転換
 - ・IOT(Internet of Things)、スマートグリッド等の技術革新
- 生物多様性の保全(愛知目標)、PM2.5等の新たな環境問題
- 国連SDGs(Sustainable Development Goals)の採択

<国内の動き>

- 東日本大震災の発生や気候変動による影響への対策(適応策)
- パリ協定や愛知目標を受けた国内環境対策
- 人口減少・少子高齢化

1-2. 札幌の現状とこれまでの取り組み

<札幌の都市構造>

- 奥定山溪の広大な森林や円山・藻岩山等などの豊かなみどり
- 人口約195万人の大都市(政令指定都市で4番目の人口)
- 市街化区域の緑被率は他の政令市と比較して高くない

<健康で安心な生活環境の確保>

- これまでの札幌における環境問題の変遷(大気、土壌、水質、騒音・振動、化学物質対策)
- 「環境首都・札幌」宣言(2008年)

<気象と気候変動>

- 積雪寒冷地である地域特性
- 札幌市における気温の変化と気象変化
- 温室効果ガス排出量の推移
 - ・家庭・業務部門のCO2排出量の増加
 - ・冬期間のエネルギー需要(CO2排出量)の大きさ
 - ・自動車依存型の移動(ライフスタイル)
 - ・泊原子力発電所の稼働停止と東日本大震災後の省エネ対策

<廃棄物>

- 家庭ごみ新ルール適用によるごみ減量・リサイクルの推進

<生物多様性や自然環境の状況>

<環境に対する市民意識の現状>

- 「自然」・「環境」への魅力度が高い都市

<社会情勢の変化>

- 人口減少・少子高齢化
- 景気動向の変化(エネルギーコスト)、環境関連企業の動向

2. 札幌の特徴と市民が望む札幌市の将来

<環境保全の基本理念>

- 札幌市環境基本条例 第3条

<札幌のポジション>

→積雪寒冷地でありながら人口約195万人の世界でも類を見ない大都市として、また、「環境」や「自然」に対する魅力ある都市として、次世代に良好な環境を引き継ぐ責務がある。

<札幌の特徴>

- 地形・自然
- まち(インフラ・産業) **詳細は資料2-1, 2-2に記載**
- ライフスタイル

<必要なこと>

- 市民から見た、札幌にとって必要なこと

3. 札幌が目指す将来像

資料2-3に記載

4. 札幌市の環境保全における課題と施策の方向

- ①健康で安全な都市の実現(基本的な課題)
- ②重点的に取り組むべき分野の課題
- ③効果的な対策の推進

詳細は資料2-4に記載

5. 環境首都SAPPORO(仮)を実現するための施策の柱

資料2-4,2-5,2-6に記載

6. 各施策の柱における取組内容

資料3に記載

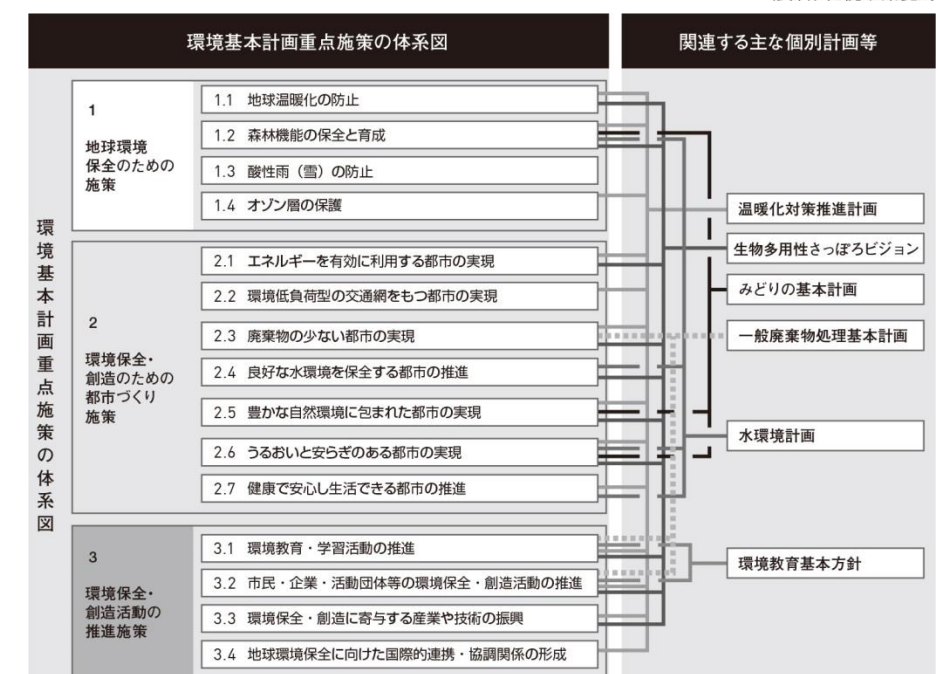
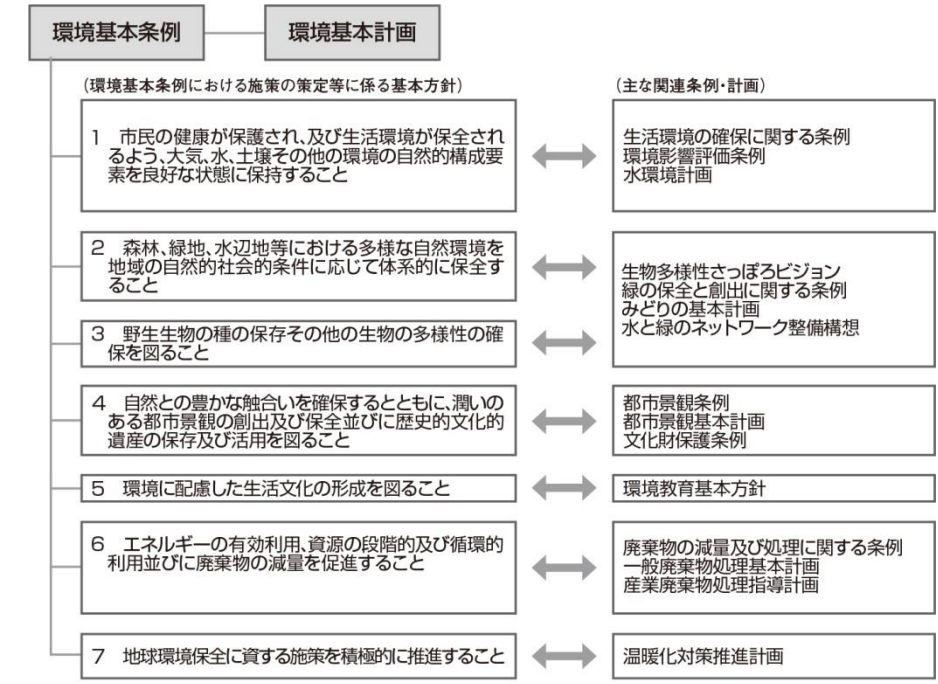
7. 環境首都SAPPORO(仮)の実現に向けた先導プロジェクト(重点プロジェクト)

<計画骨子作成後に検討>

8. 環境首都SAPPORO(仮)の実現に向けた推進体制とロードマップ

<計画骨子作成後に検討>

**【参考】
現行計画(第1次計画)における環境施策に関する主な条例・計画の体系、及び現行の環境基本計画と主な個別計画の関係**



(資料) 札幌市環境局